

2011年3月1日

開講機関：財団法人労働科学研究所

労働科学研究所 酒井一博

1. 教育活動の趣旨

労働科学研究所が科学技術振興調整費の支援を受け、5年間9期にわたり継続してきた「産業安全保健エキスパート養成コース」は、2009年度より「知の市場」と連携して開催している。2010年度は「第10期産業安全保健エキスパート養成コース」と位置づけて、4科目を開講した。

「産業界の健全な発展と、働くすべての人の豊かな働き方・生活づくりを支える（労働科学研究所ホームページ）」一環として、産業安全保健領域における中核人材の育成に取り組む。この教育活動の視点として、①安全・健康・職場環境の三位一体アプローチによる統合視点の獲得、②現場状況を適切に把握できる能力の育成、③経営トップへの提言力の養成（産業安全保健マインドをもち実践することが経営の要件であることを発信できる）、を掲げている。

2. 2010年度開講実績（応募者属性、小レポート、アンケート等の解析結果）

前期（基礎コース1科目：RT421：7月）と後期（中級コース3科目：RT422a、RT422b、RT422c：9月～11月）に計4科目を開講した。中級コース3科目修了者を主な対象として開講を予定していたRT422d（上級コース）は、諸般の状況を考慮して、今年度は開講を見送ることとした。

(1) 応募者・受講者の状況

基礎コースの受講者は10名（応募14名）、中級コース3科目の受講者は49名（応募49名）で、延べ59名の受講者であった。中級コース3科目の受講率は100%であった。中級コースは、今後予定している上級コース受講のために3科目を並行して受講することを推奨しているが、3科目を通じた受講者は10名であった。

(a) 応募者の男女比率は、男性86%、女性14%であった。年齢構成は、20歳代3%、30歳代14%、40歳代28%、50歳代52%、60歳代以上3%で、「企業の安全衛生部門に所属する者」を主たる対象としている本講座の特徴を表していた。

(b) 居住地域は、首都圏（1都6県+山梨県）が88%と大半を占めているが、愛知県（6%）、兵庫県（5%）、大阪府（2%）と、中部、近畿からの受講者もいた。

(c) 応募者が講座を知った情報源は、「上司あるいは教育部門の指示」が37%と最も高く、次いで「お茶の水大学・知の市場ホームページ」36%であり、労働科学研究所が独自事業として続けてきた成果と、知の市場との連携を始めたことの両者のメリットを示している。

(d) 産業別では、化学工業・石油製品製造が24%と最も多く、ついで、窯業・土石製品製造が17%、土木・建設が11%であった。その他、少数であるが食品、プラスチック・

ゴム製品、電機機械などの各製造業、電気・ガス・水道、運輸・通信、などインフラ関係、専門サービス・コンサルタント、民間研究機関など、シンクタンク関係などの全 19 業種であった。これらの特徴は、第 9 期までの受講者と比較して、大きな差はない。

(e) 応募者の受講暦は、「今回初めて」が 34%、08 年前期～10 年前期までで 55%、それ以前が 10%であり、「講座を知った情報源」と同様、労働科学研究所が独自事業として続けてきた成果と、知の市場との連携を始めたことの両者のメリットを示している。

(2) 成績評価

RT421 について、成績評価は完了している。出席日数と最終レポートによって、所定の基準を満たした受講者に受講修了証を発行した。修了者は受講 10 名に対して、9 名であった。(1 名は出席を途中で断念、最終レポートも提出無しであった。)

(3) 受講者の評価 (2010 年度 RT421)

RT421 受講者アンケートによれば、「講義に満足しましたか」、「講義を理解できましたか」について 4 (満足、概ね理解できた) 以上を回答したものが、大半を占めた。「講義のレベル」については、3 (普通) と回答した受講者が大半であった。

「講師の話は分かり易かったですか」、「教材は分かり易かったですか」については、3 (普通) ～1 (とても分かり難かった) の評価が上記に比べやや増えた傾向にあった。各講義担当者による評価の差が見られ、講義テクニック、教材作成テクニックの更なる向上と講師差の解消が課題と言える。

3. 2011 年度開講内容

2010 年度に引き続き、基礎コース、中級コースを開講する。2011 年度は、上級コース (中級コース 3 科目の修了者を主な対象とする産業安全保健エキスパート養成最終コース、および既に産業安全保健エキスパートとして認定された者を対象とする、産業安全保健エキスパート養成リカレントコース) 2 科目を開講する。基礎コース、中級コースは早稲田大学規範科学研究所の協力を得て、早稲田大学の施設において 4 科目 (労働科学、労働科学特論 a～c) 開講し、上級コースは、労働科学研究所において 2 科目 (労働科学特論実習 1) 開講予定。

開講場所：早稲田大学

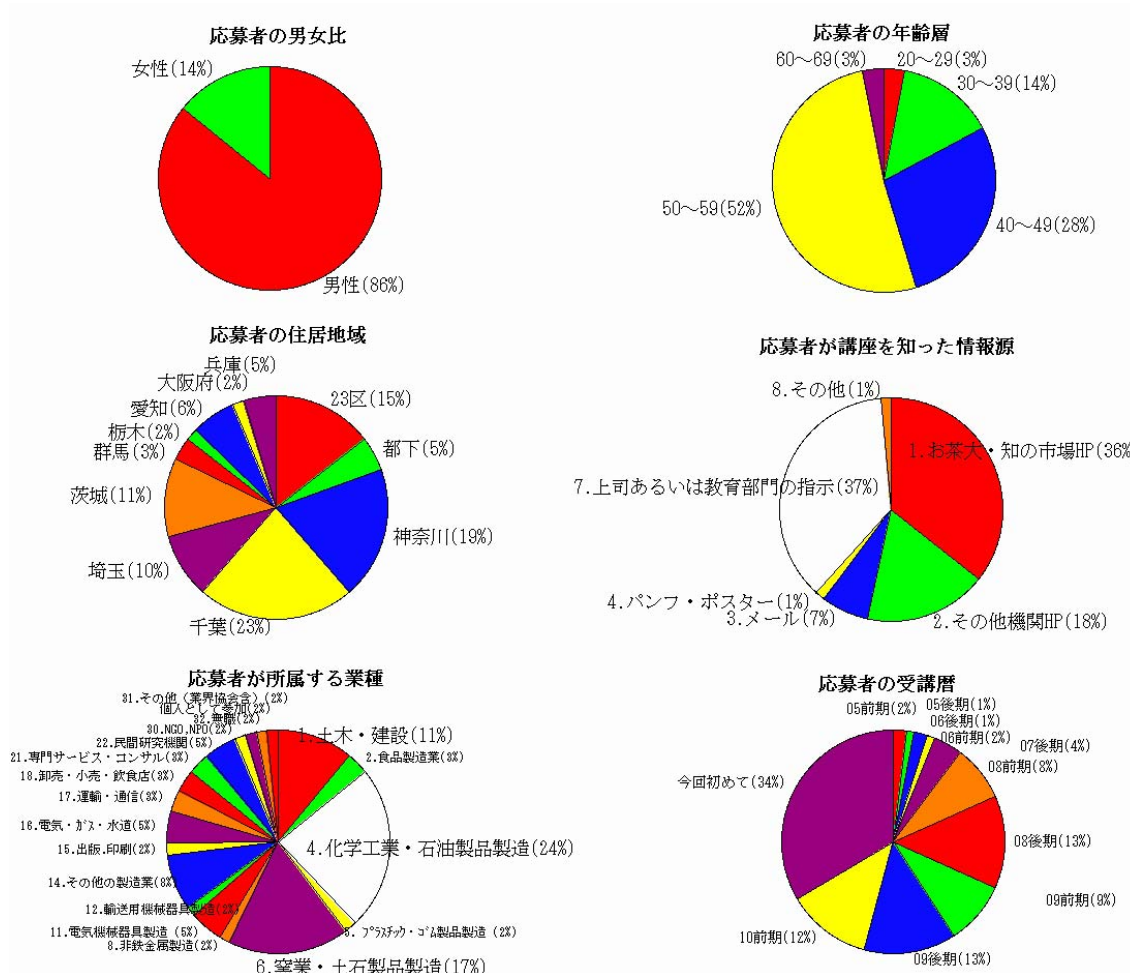
RT421 : 労働科学	産業安全保健の基礎：労働科学の歴史と展開
RT422a : 労働科学特論 a	産業安全保健エキスパート養成コース (安全)
RT422b : 労働科学特論 b	産業安全保健エキスパート養成コース (健康)
RT422c : 労働科学特論 c	産業安全保健エキスパート養成コース (環境)

開講場所：労働科学研究所

RS422d : 労働科学特論実習 1	産業安全保健エキスパート養成最終コース
RS422e : 労働科学特論 e	産業安全保健エキスパート養成リカレントコース

4. その他、抱負や課題など

労働科学研究所の教育事業は、①産業安全保健エキスパート養成コースを知の市場において開講する、②5年間をかけて養成したエキスパートのネットワークを確立し、継続的な能力アップを支援するとともに、新事業を企画、実践する（独自事業）、③中小企業をターゲットに短期集中型のエキスパートの養成事業と取り組む（独自事業）。以上の3つの教育事業が噛み合わせることによって、実のある社会人教育をめざす。



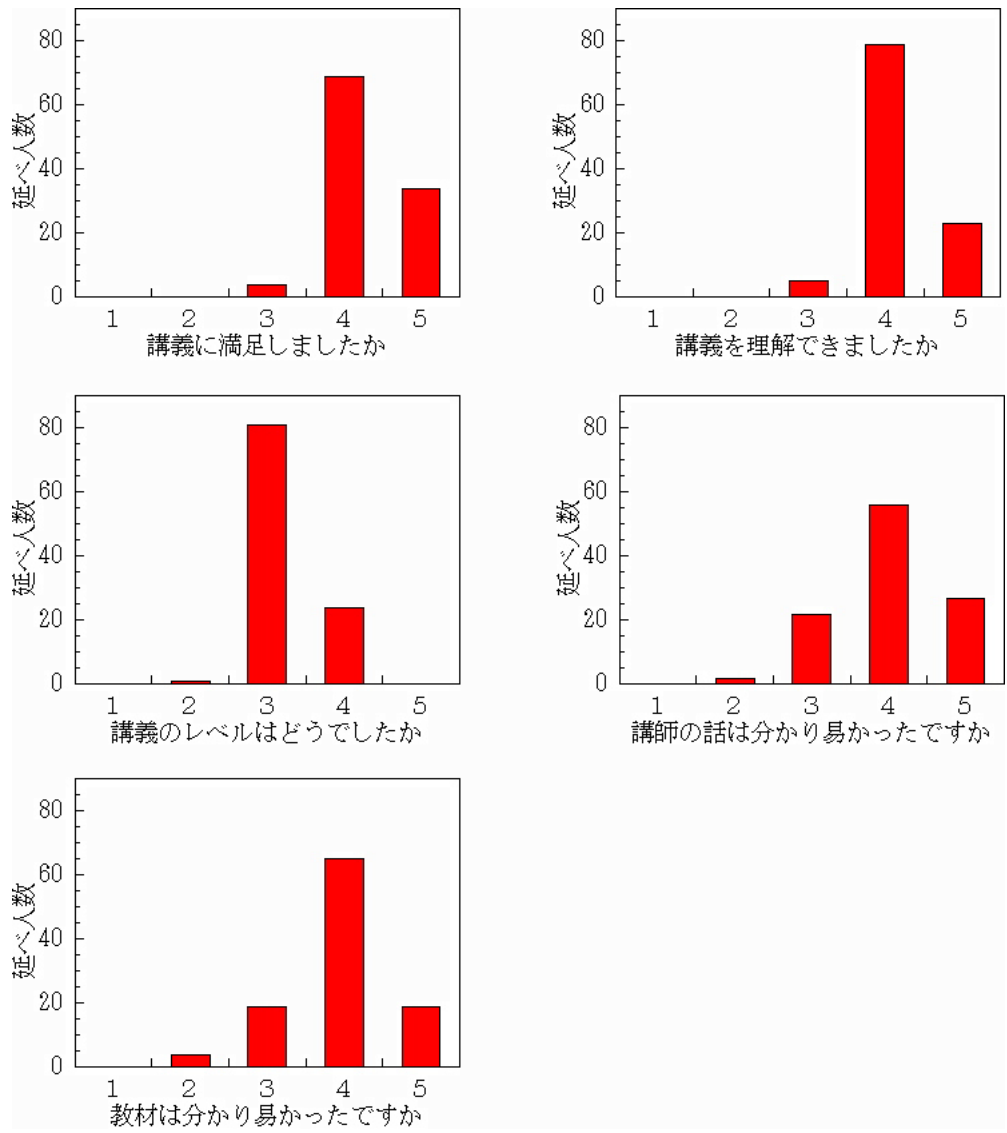


図2 RT421 における受講者からの評価